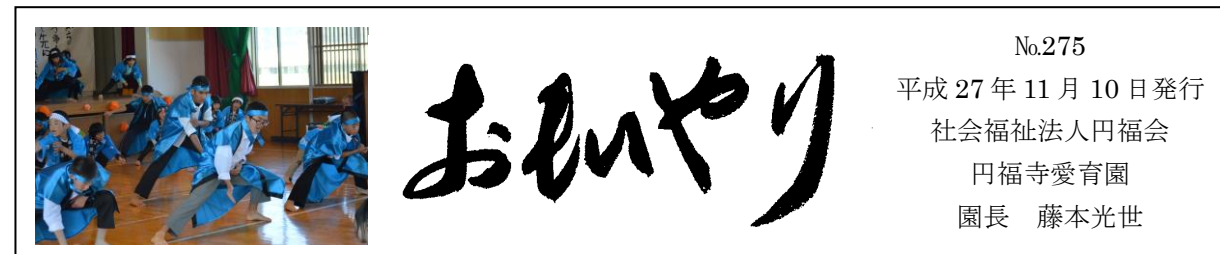


10月25日第18回愛育園祭 子ども達の切れの良いソーランの集団演舞に感動しました。



心を開く

園長 藤本光世

私は、人間が成長するには、心を開くことが重要だと思っている。

心を開くとは、問題に対して、我を捨てて、頭ではなくて、心で考えることである。心で対応することである。

私は物理の教師をしていたので、このことは強く感じる。つまり、物理が分かる為には、頭で考えるのではなくて、心で考えられるようにならないとだめなのである。心の底から納得しないと。単語を覚えるように、教わったことを記憶して対応しようとする人は、物理が分からない。「わかる」とは「かわる」ことなのである。

だから、いかに心を開かせるかが、授業を授業たらしめるのに重要なのである。その為、私は実験を使った。実験とは、教科書に載っているのをそのままやるのではなくて、自分で創るのだ。創るとは、目的を明確にし、実験器具を用意し、必要な実験器具が無ければ作り、材料を用意し、必ず予想を立てて視点をはっきりさせて実験する。多くの児童が予想を間違える実験こそ、重要である。そこで既成概念が壊され、心が揺さぶられ、心を開くことになる。それでも、心を開くことは難しい。だから、物理嫌いや、分かったつもりでもできない人が出来てしまう。

愛育園祭で、児童の二つの書道パフォーマンスがあった。一つは女子中高生と職員によるもの。もう一つは、男女中高生によるものである。後者は、集団演舞「ソーラン」の前に、大きく『挑戦』と書いた。目の前に立ちはだかる壁を見て、やる前から無理、どうせ俺なんか、というのを止めよう。応援してくれる先生に反抗するのはやめよう。そして、未来の自分のために挑戦しよう。愛育園祭の準備を通して、僕はこのことが分かった。そのような思いを『挑』の字を大きく立派に書いた高校3年生が語った。彼は、愛育園祭の準備や後片付けや練習を進んでやっていると聞いていた。これまでになかったことだ。ソーランも前面に出て自信を持って、大きく、悠々と踊っていた。それは、彼にとって大きな脱皮であった。その経験を『挑戦』という言葉に表した。そう思った。

それまで、彼は心を閉ざしていた。どうせ俺なんて、無理。そう殻に被って、可能性を閉ざし、挑戦することをしなかった。暴言を吐いたり、ドアを蹴って大きな音を出したりすることもある。挑戦する勇気やエネルギーを拒否していた。でも、愛育園祭の準備や練習を通して、心が開かれ、やればできる自信が出来たと思った。話す彼の顔が輝いていた。美しかった。



は思ってもいなかった。子どもの問題行動に振り回されるだけだと思っていた。

でも今は違う。たくさんたくさん感動を貰っている。何度も何度も、胸が熱くなり、感動に襲われる。子ども達の一挙手一投足、見えない陰に隠れた一つ一つの行動、一生懸命のそれぞれに、感動がある。

私は愛育園がこうになったことをとても嬉しく誇りに思う。

第18回愛育園祭

副園長 青谷 幸治

今年のテーマは「挑戦」です。毎年テーマを考えてきたわけでもなく愛育園祭を実施してきました。今年は、ホーム長2人の願いが強く子どもたちに何でも挑戦し多くの経験と思い出を残してほしいという期待が込められました。そのテーマの通り中高生を中心にいろんな企画に取り組んでくれました。弱音を吐く子もいました。でも本番の成功を夢見て何でも行動に移しました。毎晩0時を過ぎるまで準備する高校生もいました。木遣り、書道パフォーマンス、カラーガードと真剣に練習する姿にジーンとききました。昨年以上に子どもたちが変わったところ。それは顔つきです。目標を決めたら成功するまでやり通すことが顔にも表れ、目つきで本気度がわかりました。そして先生方とコミュニケーションを取りながら準備を進めてきたことです。普段の生活では補うことが難しいことを行事を通して人間関係を築き、同じ目標に向かって頑張ってきました。本番当日



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

も誰一人として自分の持ち場を離れることなく、お客さまにおもてなしの心で接してくれました。児童の発表も形だけ作るのではなく、少しの失敗があっても取り組む姿から今までの努力がにじみ出ているのが見えました。子どもたちの頑張りに感動して涙が止まりませんでした。この挑戦を忘れることなく、日々の生活に生かし新たな目標に向かって何でも挑戦してほしいと思います。お忙しい中、来賓の皆様・地区の役員の皆様ご参加いただきありがとうございました。

愛育園祭を終えて

あおぞらホーム長 富沢正樹

10月25日、第18回の愛育園祭が行なわれました。

今年の愛育園祭は、素晴らしかった去年の愛育園祭を更に越えるお祭りになりました。

今年は、初めての試みとして、児童で構成する実行委員会を作りました。「どんな事をやりたいか」「どんな飾り付けをしたいか」そう言った事を、児童同士で話し合い、準備を進めていく。そんな児童主体の愛育園祭となりました。

発表の内容や露店の準備などは去年よりも難易度が高いものに挑戦しましたが、皆、「自分達で決めた事」と、ほんとに一生懸命に頑張りました。そして、何より楽しそうに、でも、ふざけ半分になることなく、真剣に準備を進める子ども達に胸を打たれました。時に、私も、口を出したり、一緒に加わりたいという衝動にかられましたが、「今年はどこまでも児童主体で」を自分自身のテーマに掲げ、グッとこらえて見守る機会が多くありました。そんなことができるのも、愛育園の児童達がそれだけの信頼ができるだけの存在に成長してきたという証拠なんだなと、昨年、一昨年から本当に頼もしくなってきた事を感じます。

実行委員長のH君は、先頭に立って準備を進め、出番も多く大変だったと思います。最後までやり切る事ができた時は、達成感に満ち溢れていました。

今年が愛育園祭最後となるO君は、オープニングの木遣りにソロパートに挑戦しました。人前で大きな声を出す事は大の苦手です。でも、立候補してくれて、緊張で声が震える中、堂々とやりきました。

同じく、今年が最後のA君も、有志で行ったカラーガードに参加し、周りについていけない不安から逃げずに、本番では見事に旗を揃える事ができました。また、閉祭宣言では、愛育園祭を振り返り、自分が悔いを残さずに取り組めたことを堂々発表する事ができました。

Y君は人一倍、発表の練習を頑張りまして、発表担当の職員を見つけては、「練習しよう」と声を



(平成27年11月10日発行 月刊「円福」472号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

かけていました。

中学生のH君は得意な工作で、大きな製作物を器用に組み立ててくれました。

M君は、ソーラン節で練習から熱のこもった動きを見せ、実行委員長に勝るとも劣らぬキレのある舞を見せてくれました。



一か月後に大学受験を控えたN君も、野球班の活動で忙しいI君も、縁の下の方力持ちとして裏方に回って支えてくれました。

それぞれ得意な事も不得意な事もあるけれど、同じ目標に向かって、一つになれる。そして、人前で堂々と発表できる。愛育園祭が終わった後の、子ども達の高揚した顔が忘れられません。準備も含めて、本当に良い一か月間を過ごせました。

自分が全力で取り組む前向きな姿勢でいるからこそ、周りの人を尊重する事ができる、優しくできる事を、子ども達の姿を見て学びました。子ども達もきっと感じていたと思います。慣れ合うのではなく、尊重しながら高め合う。今後も、そんなホームを作っていきたいと感じた今回の愛育園祭でした。

第18回愛育園祭

～書道パフォーマンス～

まごころ・そよかぜホーム長 石崎早織

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

今年の愛育園祭も秋晴れの中、無事開催することができました。また今年もたくさんの方々にお越しいただきありがとうございました。

今年の愛育園祭はいつもとは違い、テーマを決めて行おうとホーム長や副園長と相談し「挑戦」をテーマに愛育園祭の準備がスタートしました。今年もまごころ中高生と職員で作る書道パフォーマンスをやらせていただくことになり、この「挑戦」をどのような形で書道パフォーマンスの中に取り入れようか、高校3年生の児童を中心に考えることから始まりました。子どもたちは今どんなことに挑戦しているのか……。日々の生活の様子を見ながら、どんな内容だったら今の子どもたちに合うのかを考えたとき、「夢」に向かって挑戦している子がとても多いと感じました。

夢といっても人それぞれで、将来の夢を実現するために頑張っている子、今の生活をもっとよくするために頑張っている子、など様々な形があります。書道パフォーマンスのテーマを「夢」に決め、子どもたちに「夢」に向かって今どんなことを頑張っているのか等アンケートを取りました。その中で、多く出たのは日課を継続して頑張ること、人の話を素直に聞くことでした。いつも職員が言っていることが、子どもにもちゃんと伝わっているのだと思うと、私自身嬉しく感じました。そのあとすぐにアンケートを元を書く文章を決め、8日間一生懸命練習してきました。練習時間は夜が多く、学校や部活、バイトで疲れている子どももいましたが、途中で投げだすことなく、一生懸命練習に取り組む姿が**あ**りました。最初はうまく書けないと言っていた子どもも練習を積み重ねることに、日に日にきれいに書けるようになり、子ども自身もだんだんと自信をもって堂々とした字を書くことができていま**し**た。本番2日前から大きな紙を使い、リハーサル。今までは個人練習で周りの書くペースは関係ありませんでしたが、今度は違います。1曲のうちに全て書ききらなくては

いけません。最初は全くと言っていいほどうまくいかず、2曲分使ってもギリギリで、私自身も本番までにちゃんと形になるのか不安でした。どうやったら時間内にかけるのか、みんなで意見を出し合い、夜遅くまで練習に取り組みました。何回か繰り返していくうちに少しずつ容量を掴み、また声を掛け合いながらやることで、何とか前日には形にすることができ、本番を迎える

ことができました。本番はたくさんのお客さんに見守られながら、みんな緊張していましたが、練



(平成27年11月10日発行 月刊「円福」472号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

習の成果をしっかりと出すことができたと思います。また練習では曲と同時に書き終わることが一回もできず、早く終わったり、少しオーバーしていましたが、みんなの心が一つになったことで、初めて曲と同時に書き終わりました。この瞬間鳥肌が立ちました。子どもたちのやる気や思いがしっかり形に出たと思い、本当に嬉しかったです。そして素晴らしい作品ができたのも、みんなが書道パフォーマンスを成功させるために全力で取り組んでくれたからだと思います。これがまごころ中高生と職員の「挑戦」です。この挑戦する心が今後も生活の中で生かせるよう全力で応援していきたいと思います。

第18回愛育園祭

調理主任 伊藤 慈子

10月25日に、今年も愛育園祭が行われました。前日が大雨で、翌日の天気がとても心配でした。当日は、風が強く、肌寒く感じましたが、晴れてよかったです。

調理では毎年、具だくさんの豚汁と、つくたてのおもちを出しています。前日から準備し、当日は朝早くからみんなで作りしました。今年は、2名の方にお手伝いに来ていただいたので、どちらもできたてを、食べてもらうことができ大盛況でした。調理の中は、てんてこまいの忙しさでしたが、『すごくおいしかった』、『5杯も食べた』、『もっと食べたい』と、言ってもらえたのでとてもうれしかったです。



私は、露店のお手伝いで、《シャカシャカポテト》のポテトをひたすら揚げていました。今年の露店は、《フランクフルト》、《たこ焼き》、《綿あめ》、《フロート》、《シャカシャカポテト》5種類ありました。《たこ焼き》に関しては、試作をしで、前日や当日の準備に始まり、ずっと焼き続けていても間に合わないほどで、とても大変だったようです。どの露店も担当した中高生がとても頑張っていたので、大盛況でした。

そして、子ども達の発表は、どれも素晴らしく、1人1人が輝いていました。たくさん練習していたので、みんなの心が一つになっていました。とても素晴らしかったです。感動しました。この愛育園祭は、もてなす側も楽しめるお祭りでした。

第18回愛育園祭

保育士 近藤 典雄

10月25日第18回愛育園祭が始まりました。今年は約ひと月前から中高生を中心にして計画

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

するところから始まり、準備、発表の練習を行ってきました。子供たちも計画の段階から積極的に参加してどんなことをするか、どんな愛育園祭にしたいかさまざまな思いをもって取り組んでいました。

私は今年、小学生の発表の担当を受け持つことになり、今年はどうな発表にしようか思い悩んでいました、そんなときに小学生の児童から「今年はどうなことをするの？」聞かれ、「もう少し待っててね。もう少しで知らせるから」と言っていました、愛育園祭の１０日前になっても、決まっていませんでした。中高生はどんどんやることが決まって、準備や練習が進み、内心焦っていました。そんな時に他の職員の先生方から歌を発表してみてもどうかと提案してもらい。ついに小学生も動き始めることが出来ました。

小学生の発表はいきものがかりの「笑顔」に決定し毎日５時半からと、夕食後の練習が始まりました。そんな中で小学２年生の女の子は、毎日の練習に欠かすことなく参加して始めはあまり声が出ていなかったのですがだんだんと大きな声が出るようになり顔も歌のタイトルと同じように笑顔になっていくのが見てる私のほうが、楽しくなっていくようでした。

本番当日も難しい歌で、なかなか歌詞を覚えることが難しかった子も大きな声で楽しそうに歌っていました。私は指揮者をやらせていただいてみんなの顔を見ているのがとてもうれしかったです。

今年の愛育園祭は子供たちの自主性が発揮された行事になったと思い、中高生は持っている力はほんとにすごいと思い、小学生や幼児さんはとても楽しんで参加できていて大成功終わったと思います。

第１８回愛育園祭 カラーガード有志による発表 保育士 佐々木 弘観

運動会の季節も終わりに近づいてきた１０月上旬、子ども達から「愛育園運動会でやったカラーガードをまたやりたい。」という声がありました。愛育園祭では運動会とは違い、体育館での発表のため人数を絞り、今度は有志のみでカラーガードの発表をする事に決まりました。

運動会での発表は「宇宙戦艦ヤマト」のテーマ曲でしたが、今度は「ルパン三世」のテーマ曲に決まり、また、有志による発表のため運動会よりもレベルの高いカラーガードに挑戦しよう。という事になりました。有志を募り、男の子３人、女の子３人の計６人。職員２人を合せて合計８人で練習が始まりました。

有志による発表とのことで、音に合わせて全員がビシッと決まる様な振り付けを考え、男女比も１：１でしたのでそれぞれ左右に分けて、一部分では時間差のある振り付け構成にし、非常に難易度の高い曲となりましたが、今年の愛育園祭のテーマは「Full force ～全力～」ですので、精一杯挑戦してみる事になりました。

しかし、全員が高校生。生徒会や部活、アルバイト、またそれぞれが別の愛育園祭の準備もありましたので、中々練習できる時間がありませんでした。１日１５分程しか練習できない日もありましたが、その限られた時間の中でも

(平成 27 年 11 月 10 日発行 月刊「円福」472 号付録 昭和 52 年 5 月 25 日第三種郵便物認可)

「今のところもう一回教えて！」や「用事済ませてすぐ戻ってくるからまた教えて！」と積極的に取り組んでくれました。時には、振り付けが難しいため中々踊れず、投げ出したくなるような場面にぶつかる姿もありましたが、そこは「full force！」その壁を乗り越え、一生懸命に取り組んでくれました。

そのため、私が想像していたよりも覚えが早く、更に上を目指してはどうか。と思いまして、男女で逆の振り付けにしてみたり、愛育園祭の実行委員長にはソロパートも組み入れてみました。また、小学生の女の子が２人「やりたい！」と言ってきてくれたため、高校生有志６人に小学生２人を加え、もう一曲にも挑戦する事になりました。この時点で愛育園祭まで残り５日。この子達なら絶対出来る！と思いまして、更なる「挑戦」へ挑んでみる事になりました。

結果、非常に難しい曲を踊りきり、笑顔もたくさん見る事ができました。更に、この高校生達の格好いい姿を見て、小学生の男の子達も「僕もやりたい！」と言ってきてくれました。

愛育園祭の発表の一部ではありますが、その中でも「やればできる！」という自信や、壁を乗り越える力というものを学んでくれたのだと思います。

まだまだ彼らの挑戦は続きます。私たち職員はそれを支え、全力で応援していきたいと思います。

感動の愛育園祭 調理員 風間岳士

私は初めて愛育園祭に参加しましたが、大勢の方が来てくださり、大成功に終わったといえると思います。愛育園祭の準備は、１０月４日の施設運動会が終わってから、休む間もなく始まりしました。毎日夜遅くまで、保育士の先生方が愛育園祭の準備をしていました。私はソーラン節の練習に参加させてもらいましたが、食堂では知ることのできない子供たちの様子が知ることができ、「先生来てね」と子供たちに誘われたりと、以前よりも子供たちとの距離が縮まったように感じます。今までの行事では、当日の準備や食事などでしか参加しておらず、子供たちや保育士の先生方がどの様に準備を進め、練習を重ねてきたのか知りませんでした。今回はわずかな時間ではありますが、調理の時間以外にソーラン節といった練習や準備の場面を見ることができ、子供たちの成長や先生方の働く姿を知ることができてとても良かったです。

愛育園祭前日、外では先生方と子供たちが協力しながら、門や屋台を準備していました。私は食堂の清掃やテーブル等の設置をしていました。いつもは保育士の先生方をお願いして必要なものを倉庫から持ってきてもらったり、調理の先生方に指示されたことを行っていましたが、今回は自分から物の場所を聞き取りに行ったり、指示されたこと以外にも自分で仕事を見つけ、こうすれば良くなるかなど考え、動くようにしました。当たり前ですが、自分勝手な行動はしてはいけないので、周りの先生たちに確認をとり、早急にしなければいけない作業がないかなど聞いてから動くようにしました。時折外の様子を見てみると、着々と屋台や飾り付けが進んでおり、本番が近づいていると感じました。

本番当日、朝は寒かったですが、時が立つにつれ気温も上がっていき、ついに愛育園祭が無事に

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

始まりました。多くの小学生や近所の方、園の子供たちの親や兄弟といった方々が次々と来ていただき、外の出し物や露店はもちろんのこと、食堂内も大忙しでした。朝早くから作っていた豚汁を出したらスタンプを押し、同時進行で出来上がった餅を丸め、味付けをし、皿に持ったらお出ししてスタンプを押し。わずかでも時間が空いたら外にでて空いた器を下げて洗い、綺麗な器を準備する。午前中は足が止まることはありませんでした。午後になると、体育館で幼児さんの演劇やソーラン節、カラーガードを来てくださった方々に披露しました。スライドショーで愛育園祭の準備の様子が流れてきた際、子供たちが学校から帰ってきて疲れているはずなのに、先生たちと話し合い、練習している姿を見て、この愛育園祭は先生たちが考えたものを子供たちに伝えて準備されてきたのではなく、子供たちと先生方がともに考え協力して準備されてきたのだと感じました。

この愛育園祭では、わずかではありますが、調理以外にも関わることができ、愛育園の調理員としてだけでなく、愛育園の職員として働くことができたと思っています。愛育園祭の中でこうすれば良かった、これをやってみたいと考える場面がたくさんありました。今回の反省や経験を活かし、来年度の愛育園祭は子供たちや先生たちと協力して、もっと盛り上げたいです。

愛育園祭 児童感想(あおぞら)

今年の愛育園祭は、初めて児童の実行委員会を作りました。先生に「愛育園祭で実行委員長をやってみないか」と言われた時は正直できるかわかりませんでした。

やってみると、計画・準備などで色々なアイディアを出す中で、意見が食い違ったりなどした事もありました。門のアーチを作る為の材料やテーマなどを決めるのにも時間がかかってしまったり、最後には無事決めることができてよかったです。

発表でも、有志としてカラーガードをやりましたが、振り付けが難しかった上に、佐々木先生からソロパートを任せられ、とても緊張してしまいました。ソロパートの練習を開始できたが本番3日前で、上手くできるかどうか心配でしたが何とか踊り切る事ができて、終わった後にはとても達成感がありました。

ソーラン節では、練習していくうちに去年の感覚を取戻し、本番でもしっかりおどれました。でも、アンコールをもらった2回目のソーラン節は一か所間違えてしまったので、とても悔しかったです。だからこそ来年は、しっかり踊りきりたいと思いました。

また、今年は発表で男子も女子と一緒に書道パフォーマンスをやりましたが、練習して発表できるまで持っていくことができたと思ったのですが、本番ではものすごく緊張して、自分がどこに書くのかが分からなくなってしまい、間違った所を書いてしまいました。恥ずかしかったです。

でも、今年の愛育園祭のテーマでもある「挑戦」を、僕自身は達成できたと思います。

ありがとうございました。 実行委員長 S. H(高1)

今年の愛育園祭のテーマは「挑戦」でした。

(平成27年11月10日発行 月刊「円福」472号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

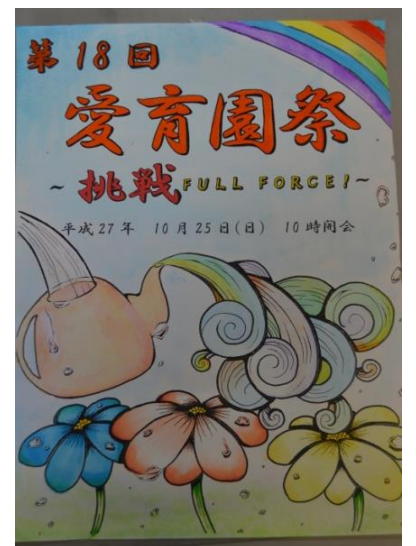
僕は、有志のカラーガードに参加しましたが、練習で何度やっても他の人の動きとズレてしまいました。でも、皆が励ましてくれました。そのおかげで一生懸命に練習してできるようになりました。本番では、緊張したけれど練習通りに出来たので良かったです。

書道パフォーマンスでも練習を積み重ねていくうちに「挑」の字が上手に書けるようになりました。最後の愛育園祭で、色んな事にチャレンジさせてもらえてとても嬉しかったです。A. K(高3)

愛育園祭の発表では歌とソーラン節をやりました。歌は大きな口を開けて歌いました。ソーランでは出来なかった所も出来るようになりました。かっこよく踊ることを頑張りました。色々な事を頑張ったけど一番はソーラン節です。たくさんの人がいたのでとってもドキドキしたけど、一生懸命頑張りました。だからとっても楽しい愛育園祭になりました。(小2 U・S)

私は愛育園祭で頑張った事があります。それはカラーガードです。私は愛育園祭の何週間前から青谷先生に「私たちも愛育園祭で何かやらせて欲しい」と愛育園祭の一週間前ぐらいに石崎先生にカラーガードを高校生達と一緒にやる？と聞かれ私はとっても嬉しかったです。なぜかという運動会の時に中高生がやっているのを見て、とってもかっこいいな！と思ったからです。萌先生に毎日のように、「今日は練習する？」と聞きに行ったりもしました。発表の時はとっても緊張して、しっかり踊れるか心配でしたが、練習の成果をしっかり出すことが出来ました。来年は中学生になるので、露店や練習をしなくてはいけない事が今年よりもたくさんあると思いますが、めげずに頑張ります。愛育園祭が終わっても今年のテーマ「挑戦」は終わってはいないのでこれからも色々な難しいことにも挑戦して頑張りたいと思います。(小6 A・T)

「ポスターを描いてみない？」富澤先生が私にそう言ったのは9月の下旬でした。驚いたけど嬉しさの方が勝り「やりたいです」と言いました。テーマは「挑戦～FUIIFORCE～」かっこいいなと思う反面、難しいなとも思いました。挑戦ってなんだろう？どんなのかな？と考えました。富澤先生と話をしていく中で園長先生の「蝶と花」の話を思い出しました。誰だって花になりたいだろうと思った私は花を描きました。そして花には必要な水も描くことにしました。最初は透明だったその水はじょうろを通ると虹色になっています。じょうろは支えてくれる先生達、仲間、友達です。その人たちの影響を受け花に水が掛り伸びていく。どの横の水しぶきは輝きを表しています。この絵を描き上げた時は本当に嬉しかったです。またこれが私の挑戦にもなりました。(中3 S・Y)



11月 園内保育だより

10月25日に行なわれた愛育園祭に向け、子どもたちは日々、練習に励んでおりました。
愛育園祭も近づいたある日のこと。児童棟の玄関から保育者と一緒に外に出て履き替えていた年少児のRくんが「ねえ、愛育園祭って、何でできているの?」と聞いてきました。愛育園祭が「何でできている?」??? Rくんの問いに保育者は思わず、「みはさん、いつもありがとう!」の気持ちでできているんだよ」と答えました。Rくんは「そっかー!」と、ぱっと明るい表情で当たり前のように受け止め、自分の台詞を精一杯大きな声で言うなど、頑張っていました。
11月、不思議な質問ではありましたが、Rくんに大切なことを気づかせてもらいました。

11月のわらい

- ・ 戸外遊びや散歩を通して、秋の自然に気づく。
- ・ ゲーム遊びをする中で、ルールを守ることや友だちとのかわいり方を学ぶ。

11月の行事

- ・ 避難訓練
- ・ やきいも大会



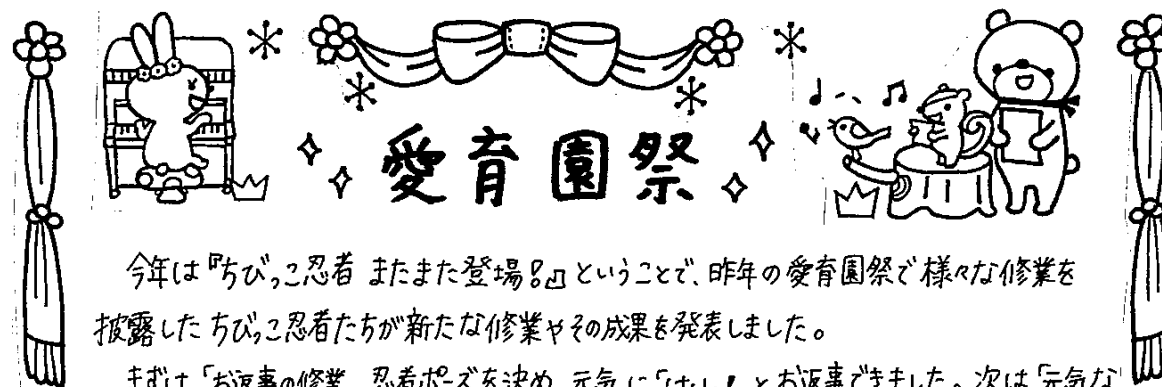
さつまいも掘り

10月29日、さつまいも掘りをしました。さつまいもは、今年度の畑の最後の収穫です。
青木先生のご指導のもと、さつまいもに傷をつけないように丁寧に掘りました。やきいも大会が楽しみです。

施設運動会、がんばりました!

10月4日に行なわれた施設運動会に参加しました。お友達は、かけ、リズ、宝さがしに出場しました。
出場しなかったお兄さん、お姉さんたちの応援をするなど、愛育園の一員として過ごす姿が、ほほえましかったです。

一日中、よく頑張ったね☆☆



今年は「ちび、こ忍者 またまた登場!」ということで、昨年の愛育園祭で様々な修業を披露したちび、こ忍者たちが新たな修業やその成果を発表しました。

まずは「お返事の修業」。忍者ポーズを決め、元気に「はいっ!」とお返事できました。次は「元気な歌の修業」で「世界中の子どもたちが」を歌いました。来て下さった一番後ろのお客様にも届くよう、前を見て、大きな口を開けて一生懸命歌いました。続いて「畑のお世話の修業」。春に苗を植え、暑い夏の日も草とりを頑張りました。そして「収穫」。沢山の野菜が採れ、みんな協力して美味しいカレーライスとサラダを作りました。「ちび、こレストラン」をひらいて、先生方をご招待し、大成功の「収穫祭」でした。

次は「変身の修行」。変身幕に隠れて、それぞれ、こりす・うさぎ・ことり・たぬきのお面をかぶり、素早く、かわいい動物たちに変身しました。続いて「音楽の修業」。「山の音楽家」を元気に歌い、動物たちが得意な楽器、バイオリン・ピアノ・フルート・たいこの演奏を真似た振り付けも上手にできました。そして最後は、楽器を変身! タンバリン・鈴・カスタネットで合奏を披露しました。

今年の愛育園祭は発表の練習だけでなく、発表に必要な物も子どもたちと作りました。色々な大きさや形の草を隅々まで一生懸命塗る年少さん、年中さん。細かい色分けが難しい食べ物や野菜を丁寧に塗る年長さん。お互いに「上手だねー!!」と褒め合う姿もありました。また、一人で言う台詞も多く、なかなか覚えられずに悔し涙を浮かべながら何度も何度も練習する姿もありました。

翌日、愛育園祭を振り返ると「最初は小さい声だったけど、大きな声で言えるようになった」「先生の合図を見なくても、自分の番でしかり台詞が言えた」

など、練習で頑張った成果を出すことができ、そのことを喜ぶ声が多く聞かれました。

愛育園祭を通して、様々な挑戦をし、子どもたちなりに、達成感を味わえたようです。よく頑張りました♡

